

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成19年7月26日
調査実施の時間	開始 10時05分 ~ 終了 15時10分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームなぎさ (大阪府)
-------------------	---------------------

評価調査員の氏名	氏名 日野和臣 氏名 岡村美穂
事業所側対応者	職名 管理者 氏名 川口武範 ヒアリングを行った職員数 (2)人

記入方法

「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に をつけてください。

項目番号について

外部評価項目は30項目です。
「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

【評価実施概要】

事業所番号	2771200306
法人名	株式会社ティー・エッチ・アイ
事業所名	グループホーム なぎさ
所在地	大阪府泉南郡岬町淡輪4658-1 (電話)072-488-2555
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ 大阪支店
所在地	大阪市中央区本町4-4-24住友生命本町第2ビル3階
訪問調査日	平成19年7月26日

【情報提供票より】(平成19年7月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 14年9月1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	19人 常勤16人, 非常勤3人, 常勤換算17人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	20,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(7月10日現在)

利用者人数	15名	男性	1名	女性	14名
要介護1	3	要介護2	2		
要介護3	7	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 83歳	最低	72歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・なぎさクリニック・高松歯科医院・野上病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町内唯一の地域密着型サービス事業所として運営されており、日頃から役場等との連携を図りながら、サービスが提供されている。ホームには、クリニックとデイケアが隣接しており日常的に支援を受けることができ、また、入居者と地域住民とが接点を持ち、会話などをする機会があり、地域に開かれた環境にある。入居者の落ち着いた様子からも日常的な支援の良さをうかがい知ることができる。介護職員は常勤の比率が高く、離職率も他のグループホームと比較しても低い。このことは、顧客満足につながる大切な要素であると考えられる。今後も、個々の入居者のニーズにあったサービスを提供することで満足度を高めるべく努めていきたい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では、理念を共有する為のホーム内掲示及び毎日の入浴支援体制の構築が主な改善課題に上げられていた。理念の掲示は行われ、改善への取り組みがなされている。入浴支援体制に関しては、更に良化するために現在、検討中である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 介護職員等に確認をとりながら、計画作成担当者が中心となり、自己評価を行っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) これまでに1度、運営推進会議が開催されている。その際には、役場職員や民生委員等の参加の下、事業所概要説明、事業所内見学、行事予定及び献立等の報告、質疑応答等が行われている。その場での意見を事業所内で検討し、サービスに活かすように努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族来訪時及び電話相談等により要望の聞き出しに努めている。また、年に1回、納涼祭の後に家族会を開催することで、意見を表出して頂けるような場面づくりにも配慮している。その結果は会議等において検討されている。また、毎月発行しているホーム便りを家族に郵送する際に、担当職員より個々に合わせた報告がなされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事に関する情報は民生委員等から得られるように努め、地域の文化祭等には入居者と共に参加している。また、近隣の小学校や幼稚園の運動会を見学することもある。また、役場職員等の訪問もあり、情報交換が行われている。

事業所名:

2. 調査報告書

主任調査員氏名: 日野和臣 / 同行調査員氏名: 岡村美穂

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとなることを機に、ホーム理念を見直す機会を設けて、これまでの理念に加え、地域生活の継続を支える支援を加味している。		もう少し端的に理念を示すことで、介護職員や入居者及び家族に浸透しやすくなると思われる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示することで共有化が図られている。また、管理者は会議等の場においても、理念に触れ、サービスに反映できるように意識している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に関する情報を民生委員等から得ることで、地域の文化祭等に入居者と共に参加している。また、近隣の小学校や幼稚園の運動会等を見学することもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	介護職員に確認をとりながら、計画作成担当者が中心となり、自己評価を行っている。外部評価を「気づき」の機会と位置づけ、職員間で評価結果を回覧したり、会議等でも課題として検討している。		

事業所名:

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今年3月に運営推進会議が開催されている。その際には、役場職員や民生委員等の参加の下、事業所概要説明、事業所内見学、行事予定及び献立等の報告、質疑応答等が行われている。その場での意見を事業所内で検討し、サービスに活かすように努めている。</p>		<p>運営推進会議を更に積極的に開催することで、ホームの状況を地域に理解してもらいつつ、要望や助言を頂けるよう活動されることを期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>認定調査等も町職員が担当されている為、訪問時には、情報交換を行うことがある。また、地域包括支援センターや役場職員を招いてグループホームを理解して頂く取組み等も行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月発行しているホーム便りに、担当職員が個々に合わせたコメントを記載して状況報告がなされている。金銭管理は立替対応の為、毎月用途を報告し、請求がなされている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族来訪時等に接点を持ち、要望の聞き出しに努めている。また、年に1回、納涼祭の後に家族会を開催することで、意見を表出して頂けるよう場面づくりにも配慮している。家族から要望があった場合はその都度解決するように努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>グループ内での異動はこれまで行っていない。また、他グループホームと比較した場合、離職数も少なく、馴染みのある職員によるサービスが提供されている。離職がある場合でも、引き継ぎをスムーズに行っている。</p>		

事業所名:

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画作成担当者が中心に外部研修を受講し、その内容をホーム内で伝達する時間が持たれている。また、ホーム内で、介護福祉士受験対策として勉強会を行い、資格取得にむけた支援もなされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在のところ、同業者のネットワークには加入していないが、特別養護老人ホームや老人保健施設等の介護保険事業所と交流を図り、情報交換を行うことで、サービスの質向上に活かすべく、取り組んでいる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居契約前には入居者本人及び家族と相談し、時には体験入居していただくことで、双方、納得の下、利用を開始できるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	役割を入居者に持っていただくことで、共に支えあう関係を構築できるよう意識した支援がなされている。また、職員は、日常会話の中から、生活文化の大切さを学ぶ機会があることを認識している。		

事業所名:

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で、希望や意向を直接うかがうことを職員が意識している。また、聞き取った内容の実現に向け、会議等で検討し出来る限り取り入れている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居前のアセスメント及び家族来訪時に意見、要望の聞き取りを行い、ケース会議で検討して介護計画が作成されている。更新時には、署名捺印により確認が行われている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者及び入居者担当者を中心としたモニタリングが実施され、記録も残されている。また、変化が見られた際には、随時、計画の見直しが行われ、サービス内容の変更へとつなげている。</p>		<p>短期及び長期目標設定も適切に行われ、サービスが実施されている。現在、介護計画更新時期の短縮を検討しておられ、更にきめ細かいサービス提供実現の為にも実施されることに期待したい。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>クリニックが併設されるメリットを活かし、入居者の身体状況を鑑みながら、柔軟な医療支援体制が行われている。また、専門的な立場から町やその他公的団体と協調し、入居者の生活支援を行っている。</p>		

事業所名:

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>内科及び歯科の往診が週1回あり、クリニックが併設されていることから他科の受診も比較的容易に行いやすい環境にある。また、かかりつけ医の受診も家族の協力を得ながら対応している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居契約時より、ホームとしての方針を入居者家族に説明し、相談しながら対応している。終末期や看取りに関しては、医療機関での対応を基本方針としている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者への対応は丁寧に行われている。これまでも、個人情報保護に関する理解及び徹底を管理者より職員に対して促している。</p>		<p>会議等の機会において、入居者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応が出来ているかどうかを継続的に職員間で見直す機会を持つことが望まれる。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な日課はあるが、入居者の状態に配慮しながら、散歩や買い物等、柔軟に支援している。</p>		

事業所名:

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時には入居者の好みも反映できるように配慮している。また、食事の準備や片付けも入居者の力を活かしていただきながら、職員と共に作業を行う場面作りも工夫されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居日は基本的に週3日設定されており、特浴を利用する入居者は併設施設の設備を利用するケースがある。		現在、入浴支援方法等について、職員間で検討されているところである。一人ひとりの希望やタイミングを考慮しつつ、支援されることを期待したい。
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の経験や現状の力を活かし、家事を中心とした役割作りや場面設定を行っている。楽しみごとや気晴らしについては、これまでの趣味を入居後も継続して行っていただけるよう配慮して、編み物やパッチワーク等を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々のその日の希望に沿う対応までは出来ていないが、散歩や近隣の店での買い物をご一緒することで、戸外に出る機会を設けている。四季を感じて頂ける様に花見に出かけたりすることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の安全面への配慮から玄関及びユニット入り口部分は施錠された状態にある。しかしながら、帰宅願望や外出傾向を察知することで、入居者と共に外出し閉塞感をやわらげるよう職員は随時対応している。		立地条件等により難しい面もあるが、鍵をかけられ自由に外出できない入居者の立場に立ち、その意識を持ち続けられることが望まれる。

事業所名:

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>これまで年に1回、職員による避難訓練を行っている。また、マニュアルを作成し、職員間での確認が行われている。</p>		<p>事業所だけでなく、地域住民や自治会等の協力を得ながら、定期的な避難訓練を実施されることが望まれる。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事及び水分摂取量をチェック表に記録し、把握されている。入居者の嗜好への配慮もある。また、献立の内容を栄養士や看護師が確認することで栄養面にも配慮されたものになっている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の生活空間における物品等も一般家庭にて使用するものを配置することで雰囲気作りへの配慮が見受けられる。共有部においても光の調整等ができるようカーテンを取り付け配慮が見受けられる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内の標準設備として、タンス、テレビ、テレビ台、ベット、空気清浄機等がある。また、危険物以外は慣れ親しんだ物を持ち込まれている。</p>		

は、重点項目。